

山田晶先生略年譜・業績一覧

略年譜

- 大正 11 (1922) 年 3 月 7 日 宇都宮市生。長野県出身
昭和 14 (1939) 年 3 月 諏訪中学校卒業
昭和 14 (1939) 年 4 月 第八高等学校文科乙類入学
昭和 17 (1942) 年 4 月 京都帝国大学文学部哲学科入学
昭和 18 (1943) 年 12 月 学徒出陣で海軍に応召。舞鶴海兵団に入隊
昭和 19 (1944) 年 9 月 京都帝国大学文学部哲学科卒業
昭和 19 (1944) 年 10 月 海軍少尉に任官，横須賀警備隊付
昭和 20 (1945) 年 8 月 終戦により復員
昭和 21 (1946) 年 3 月 京都大学大学院特別研究生（昭和 25 年 9 月まで）
昭和 25 (1950) 年 10 月 関西大学文学部哲学科非常勤講師（昭和 26 年 3 月まで）
聖トマス学院において，トマス『スンマ』翻訳に従事（昭和 40 年 9 月まで）
昭和 26 (1951) 年 4 月 大阪市立大学文学部講師
昭和 30 (1955) 年 4 月 大阪市立大学文学部助教授
昭和 32 (1957) 年 11 月 ローマ・アンジェリコ大学特別研究生（昭和 34 年 10 月帰国）
昭和 40 (1965) 年 10 月 京都大学文学部助教授
昭和 43 (1968) 年 8 月 京都大学文学部教授
昭和 54 (1979) 年 12 月 中世哲学会委員長（昭和 62 年 11 月まで）
昭和 60 (1985) 年 3 月 停年により退職，4 月，京都大学名誉教授
昭和 60 (1985) 年 4 月 南山大学文学部神学科教授・教皇庁認可神学部教授（平成 2 年 3 月まで）
平成 2 (1990) 年 4 月 南山大学非常勤講師（平成 9 年 3 月まで）
平成 5 (1993) 年 4 月 聖霊短期大学特任教授（平成 9 年 3 月まで）
平成 10 (1998) 年 12 月 日本学士院会員
平成 20 (2008) 年 2 月 29 日 鎌倉市にて逝去（享年 85）

主要業績

著書

- 『アウグスティヌスの根本問題・中世哲学研究第一』創文社，昭和 52（1977）年
 『トマス・アクィナスの《エッセ》研究・中世哲学研究第二』創文社，昭和 53（1978）年
 『在りて在る者・中世哲学研究第三』創文社，昭和 54（1979）年
 『詩集』丘書房，昭和 54（1979）年
 『トマス・アクィナスの《レス》研究・中世哲学研究第四』創文社，昭和 61（1986）年
 『詩集 朝と夕の歌』新地書房，昭和 61（1986）年
 『アウグスティヌス講話』新地書房，昭和 61（1986）年（平成 7（1995）年に講談社学術文庫版として再刊）
 『トマス・アクィナスのキリスト論』創文社，平成 11（1999）年

翻訳

- トマス・アクィナス『神学大全 3』第 1 部 27-43 問（共訳）創文社，昭和 36（1961）年
 トマス・アクィナス『神学大全 7』第 1 部 90-102 問（共訳）創文社，昭和 40（1965）年
 アウグスティヌス『告白』（世界の名著 14）中央公論社，昭和 43（1968）年（昭和 53（1978）年に中公ボックス版として再刊）
 トマス・アクィナス『神学大全』（世界の名著 続 5）中央公論社，昭和 50（1975）年（昭和 55（1980）年に中公ボックス版として再刊）
 『シャトレ哲学史Ⅱ 中世の哲学』（監訳）白水社，昭和 51（1976）年
 トマス・アクィナス『神学大全 25』第 3 部 1-6 問 創文社，平成 9（1997）年
 トマス・アクィナス『神学大全 26』第 3 部 7-8 問 創文社，平成 11（1999）年
 トマス・アクィナス『神学大全 27』第 3 部 9-12 問 創文社，平成 13（2001）年
 トマス・アクィナス『神学大全 28』第 3 部 13-15 問 創文社，平成 15（2003）年

学術論文

- 昭和 23-24（1948-49）年
 聖アウグスチヌスに於ける回心の問題（『哲學研究』京都哲学会，第 371，372，375，377，379，381，385 号）
 昭和 27（1952）年
 聖アウグスチヌスに於ける真理及び真なるものに就て（『人文研究』大阪市立大学文学会，第 3 卷第 6 号）
 昭和 28（1953）年

- 自体的 (per se) について (『人文研究』第4巻第5号)
- 昭和29 (1954) 年
聖トマスによる理論学の区分について (『人文研究』第5巻第5号)
- 昭和30 (1955) 年
能力と可能態 (『人文研究』第6巻第4号)
アリストテレスにおける *πράγματα* としての普遍者について (『西洋古典学研究』日本西洋古典学会, 第3巻)
- 昭和30-31 (1955-56) 年
聖トマスに於ける *esse* と *existere* について (『哲學研究』第435, 436, 437, 438, 439, 440, 442, 443号)
- 昭和32 (1957) 年
神の存在とエッセ (『人文研究』第8巻第5号)
- 昭和33 (1958) 年
キリストのまねび——トマス・ア・ケンピス—— (『毎日宗教講座3 いかに生きるべきか』毎日新聞社)
自然の光と恩寵の光 (『中世思想研究』中世哲学会, 第1号)
- 昭和36 (1961) 年
トマス・アクィナスにおける「ラチオ」の研究 (序説) (『人文研究』第12巻第4号)
神の現存と認識——アウグスティヌスとトマスにおける—— (『哲學研究』第476, 477号)
トマスにおける非有のアイデアについて——*De veritate*, q. 3, a. 6—— (『中世思想研究』第4号)
- 昭和37 (1962) 年
LOQUACES MUTI——Augustinus, *Confess.*, I, c. 4, n. 4—— (『中世思想研究』第5号)
教養と観想 (『南山文学』南山文学会)
- 昭和38 (1963) 年
命題の真理——ラチオの研究第二—— (『人文研究』第14巻第3号)
哲学という概念の変遷 中世 (『講座哲学大系 1 哲学そのもの』人文書院)
哲学の主要問題の変遷 中世 (『講座哲学大系 1 哲学そのもの』人文書院)
人間とは何か (『関西哲学会紀要』関西哲学会, 第7冊)
スコラ哲学 (『講座哲学大系 2 哲学の歴史』人文書院)
- 昭和39 (1964) 年
人間像の探求 (『理想』理想社, 368号)
「もの」とは何か——ラチオの研究第三—— (『人文研究』第15巻第2号)
神の意志——トマス三位一体論における—— (『哲學研究』第492, 493号)
告白と言葉——アウグスティヌスにおける *confessio* の意味—— (『カトリック神学』上智大学神学会, 第6号)

昭和 40 (1965) 年

個と「もの」——ラチオの研究第四—— (『人文研究』第 16 卷第 1 号)

懺悔と賛美——アウグスティヌスにおける *confessio* の意味—— (『西洋中世思想の研究——石原謙先生献呈論文集——』岩波書店)

愛の論理 (『実存哲学』理想社, 第 31 号)

暗黒の時代か光明の時代か (『思想の歴史 3 キリスト教会とイスラム』平凡社) ものの真理 (『中世思想研究』第 7 号)

昭和 41 (1966) 年

自由 (『理想』第 400 号)

存在と真理 (『中世思想研究』第 8 号)

行為と罪 (『哲学研究』第 503 号)

昭和 42 (1967) 年

キリスト教と哲学 (『哲学』日本哲学会, 第 17 号)

神と世界——*Sum. theol. I, q. 25, a. 5*—— (『中世思想研究』第 9 号)

一致の可能性について (『日本の神学』日本基督教学会, 第 6 号)

罪と悪——アウグスティヌス思想発展の一段階—— (『カトリック神学』第 12 号)

昭和 43 (1968) 年

中世における神と人間 (『岩波講座哲学 16 哲学の歴史 1』岩波書店)

教父アウグスティヌスと『告白』翻訳・解説 (アウグスティヌス『告白』世界の名著 14, 中央公論社)

昭和 44 (1969) 年

中世哲学の基本的性格 (『理想』第 435 号)

昭和 45 (1970) 年

無からの創造——その思想の形成—— (『哲学研究』第 515, 516 号)

アウグスティヌスにおける「真」と「真のもの」について——*Soliloq. I, c. 15, nn. 27-28*—— (『中世思想研究』第 12 号)

昭和 46 (1971) 年

在りて在る者——アウグスティヌスとトマス *Exod. 3, 14* 解釈—— (『京都大学文学部研究紀要』第 13 号)

自然神学について——その歴史と現代的意味—— (『日本の神学』第 10 号)

昭和 47 (1972) 年

アウグスティヌスにおける悪の問題——「悪は存在しない」という命題の意味について—— (『理想』第 469 号)

在りて在る者——アウグスティヌスの *Exod. 3, 14* 解釈—— (『哲学研究』第 524 号)

昭和 48 (1973) 年

在りて在る者——アウグスティヌスの *Exod. 3, 15* 解釈—— (『哲学研究』第 525 号)

- 愛と律法（『実存主義講座5 モラル』理想社）
- 存在と本質——トマスにおける実在的区別の意味について——（『理想』第484号）
- アウグスティヌスにおける神の知り方について——*Soliloq.* I, cc. 2-5——（『中世思想研究』第15号）
- 昭和49（1974）年
- 肉体と自由（『理想』第492号）
- トマスの《enuntiabile》に関する一考察——*Sum. theol.* I, q. 14, a. 15, ad 3——（『中世思想研究』第16号）
- 西洋哲学における死の問題の伝統（『関西哲学会紀要』第12冊）
- 昭和50（1975）年
- 神の内在と超越（『トマス・アキナス研究——没後七百年記念論文集——』創文社）
- 聖トマス・アキナスと『神学大全』翻訳・解説（『神学大全』世界の名著続5, 中央公論社）
- トマス哲学の現代的意義（『中世思想研究』第17号）
- 昭和52（1977）年
- トマス・アキナスにおける人間理性をこえた《res invisibilis》について（『聖トマス学院論叢——V. M. プリオット師献呈論文集——』聖トマス学院）
- トマス・アキナスにおける《causa rerum》としての神の知と意志（昭51・52年科研報告「西洋における因果論の歴史」京都大学文学部）
- 昭和52, 54（1977, 1979）年
- トマス・アキナスにおける《causa rerum》について——*Sum. theol.* I, q. 14, a. 8——（『哲学研究』第534, 538号）
- 昭和53（1978）年
- トマスのアイデア論と残された問題（『中世思想研究』第20号）
- 昭和54-55（1979-80）年
- アウグスティヌスと女性（『共助』基督教共助会出版部, 12, 1, 2, 4・5月号）
- 昭和55（1980）年
- ヘレニズム世界のキリスト教における信仰と理性の問題（昭和54年科研報告「文化の伝統の断絶と継承——地中海世界をめぐって展開された諸民族文化交錯の精神的考察」京都大学文学部）
- 昭和55-56（1980-81）年
- 煉獄と地獄（『共助』7, 9, 3, 4月号）
- 昭和56（1981）年
- ペルソナと人格神（『共助』7, 9, 12月号）
- トマス・アキナスにおける《aliquid》の用法について（『中世思想研究』第

23 号)

昭和 57 (1982) 年

創造と悪 (『共助』5, 7, 8 月号)

終末と希望 (『共助』9, 10・11, 12 月号)

昭和 58 (1983) 年

トマス・アクィナスにおける《レス》の規定 (『中世哲学研究』京大中世哲学研究会, 第 1 号)

トマス・アクィナスにおける《ディアレクティカ》の概念と用法 (昭和 57 年 科研報告「ディアレクティケー (dialectica, Dialektik) の哲学史的研究」京都大学文学部)

神の憐れ (『共助』2-5 月号)

自存性, 可知性, 実在性——アリストテレスのウシアを構成する三つの性格—— (『京都大学文学部研究紀要』第 22 号)

トマス・アクィナスにおける《レス》と《エッセンチア》について——『有と本質』第一章による—— (『中世哲学研究』第 2 号)

トマスにおける《レス》と《エッセンチア》について (『哲学研究』第 547 号)

昭和 59 (1984) 年

神の存在論証における《レス》の問題 (『中世哲学研究』第 3 号)

アリストテレス『詩学』悲劇論における《プラグマ》の意味について (『哲学研究』第 550 号)

昭和 60 (1985) 年

『ソリロクィア』における《ラチオ》の意味について——*Soliloq.* I, c. 1, n. 1—— (『中世思想研究』第 27 号)

世界の意味 (『新岩波講座哲学 4 世界と意味』岩波書店)

『ソリロクィア』における《神と魂》について——*Soliloq.* I, cc. 1~2—— (『中世哲学研究』第 4 号)

昭和 61 (1986) 年

トマス・アクィナスにおける個物の問題 (『中世思想研究』第 28 号)

『ソリロクィア』の祈り *Deus universitatis conditor*——*Soliloq.* I, c. 1, n. 2—— (『中世哲学研究』第 5 号)

昭和 62 (1987) 年

『ソリロクィア』の祈り *Praesta mihi ut ...*——*Soliloq.* I, c. 1, n. 2—— (『中世哲学研究』第 6 号)

昭和 63 (1988) 年

『ソリロクィア』の祈り *ut primum ... , deinde ...*——*Soliloq.* I, c. 1, n. 2—— (『中世哲学研究』第 7 号)

平成元 (1989) 年

古代ローマにおける「ピエタス」思想の発展 (『キリスト者の敬虔——印具徹先生喜寿記念献呈論文集』ヨルダン社)

- 「こころ」と「たましい」(『岩波講座 転換期における人間 3 心とは』岩波書店)
- 『ソリロクィア』の祈り *postremo ut libereres.* — *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 — (『中世哲学研究』第8号)
- 平成2(1990)年
- 『ソリロクィア』の祈り *omnia per Deum tendunt esse.* — *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 — (『中世哲学研究』第9号)
- 平成3(1991)年
- 『ソリロクィア』の祈り *ne id quidem quod se invicem perimit, perire permittis.* — *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 — (『中世哲学研究』第10号)
- 平成4(1992)年
- 存在の神秘と科学(『岩波講座 宗教と科学 3 科学時代の神々』岩波書店)
概念の二義性——トマスにおける *conceptio* と *ratio* —— (『中世思想研究』第34号)
- 「在るもの」と「見る者」——『ソリロクィア』における真理の問題—— (『中世哲学研究』第11号)
- 平成5(1993)年
- 神と悪 *Deus qui malum non facis, et facis esse* —— *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 —— (『中世哲学研究』第12号)
- 平成6(1994)年
- 真理と自由 *Deus qui nisi mundos verum scire noluisti* —— *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 —— (『中世哲学研究』第13号)
- 平成7(1995)年
- 真理の父 *Deus pater veritatis* —— *Soliloq.* I, c. 1, n. 2 —— (『中世哲学研究』第14号)
- 平成8(1996)年
- 呼び出される真理 *Te invoco, Deus veritas, ...* —— *Soliloq.* I, c. 1, n. 3 —— (『中世哲学研究』第15号)
- 平成9(1997)年
- 『スンマ』第三部について(翻訳・解説論文『神学大全25』創文社)
- 平成11(1999)年
- トマス・アクィナスの恵論(翻訳・解説論文『神学大全26』創文社)
- 平成12(2000)年
- プラトン『ティマイオス』における創造のミュトスの三つの解釈——アリストテレス, プロティノス, アウグスティヌス—— (『日本學士院紀要』第55号)
- 平成13(2001)年
- 人間キリストと真の人間——第三部「キリストの知」理解のための予備的考察——(翻訳・解説論文『神学大全27』創文社)

倫理学講義 第1回 キリスト教的愛について——自分のように人を愛するとは？ 三つの愛，エロス，アガベ，愛の交わり（『社会と倫理』南山大学社会倫理研究所，第11・12号）

平成14（2002）年

倫理学講義 アガベとエロス（『社会と倫理』第13号）

平成15（2003）年

アクチオとパッシオ——トマス，キリストのパッシオ論理解のための準備的考察——（翻訳・解説論文『神学大全28』創文社）

倫理学講義 世界の意味（『社会と倫理』第15号）

平成16（2004）年

倫理学講義 行為と能力——トマス『神学大全』第一部78問1-3項，第二部の第1問1項を中心に——（『社会と倫理』第16号）

平成17（2005）年

人間的行為と人間の行為——「考量された意志」における「理性」の役割——（『社会と倫理』第18号）

*その他随筆・講演・講義録等多数あり。

以 上

なお，年譜・主要業績の編集にあたり，京大中世哲学研究会（代表・川添信介氏）より御協力いただいた。記して感謝する。